

嫌われ者のヒーロー

昨今の日本は、電気・ガスなどの光熱費や小麦・卵などの食品、そして最近では一部の新聞まで値上げラッシュである。そんな生活の中で税金を負担に感じる国民は多いだろう。どうしても「搾取されている」という思いは捨てきれない。だが僕は税金の大切さを学ぶきっかけがあった。

二〇一九年十一月、母方の祖父が脳梗塞で倒れたのだ。脳の血管が詰まる恐ろしい病気だ。しかも祖父の場合は、首の太い血管が詰まってしまい、血液の供給が断たれ右脳がほとんど機能しなくなってしまった、左半身は重度の麻痺が残る身体だ。急性期病院からリハビリテーション病棟のある病院へ転院し、入院生活は半年以上に及んだ。祖父の身体も心配だが、入院費も気になっていた僕は、祖母にそれとなく聞いてみた。すると祖母は、「限度額適用認定証」や「高額療養費制度」があるから助かったと言っていた。「限度額適用認定証」は病院窓口に予め提出しておく、自己負担限度額までの請求で済む制度で、「高額療養費制度」は、月内の自己負担限度額を超えた分が払い戻される制度だ。これは健康保険税から賄われている。僕は祖母に聞くまでこの様な制度があることを知らなかった。現在は特別養護老人ホームに入居しているが、ここでも「高額介護サービス費」という制度を使い、医療費同様、介護負担限度額を超えた分が払い戻される。家族としては本当にありがたい制度だ。

税について調べてみると五十種類以上の税があり、僕が知らないだけで税は色々なところで国民の助けとなっていることが分かった。

日本は梅雨から夏は特に線状降水帯や台風による被害が多い。地球温暖化の影響で海水の温度が高くなり、台風も大型化している。そして今年も線状降水帯が各地で発生し、大きな被害が出ているのをテレビで見たばかりだ。その災害復興にも税金が使われている。その他にも救急車や消防車も税金だ。税金はまるで困っている人を助ける見えない影のヒーローだ。当たり前だと思っていた生活は実は決して当たり前なのではなく、恵まれた環境を維持できているのは税金のお陰なのだ。

税金を払うのは大変なことだが、税金の使われ方を知ると無くてはならない大切なものだということが分かる。納税は国民の義務だ。中には納税に批判的な人もいるだろう。そういう人は、税金がどの様に使われているか、何故必要なのか、きっと理解が足りないのではないか。「税」は確かに種類も多く難しい。用途も多岐に渡る。だが少子高齢化の今、次世代を担う僕達が今の内に税の仕組みや使われ方をきちんと学び理解しなくてはならない。そして今度は「守られる立場」から「支える立場」に、納税の義務を果たせる大人になりたい。